

～軽井沢町の“今”を伝える情報誌～

ボランティア情報

2015年
11月号

発行 軽井沢町ボランティアセンター
〒389-0111 軽井沢町大字長倉 4844-1 木もれ陽の里
電話 45-8113 FAX 46-2116

http://www.ktvc.jp Email karu-vc@eco.ocn.ne.jp

まちづくりって難しい!?

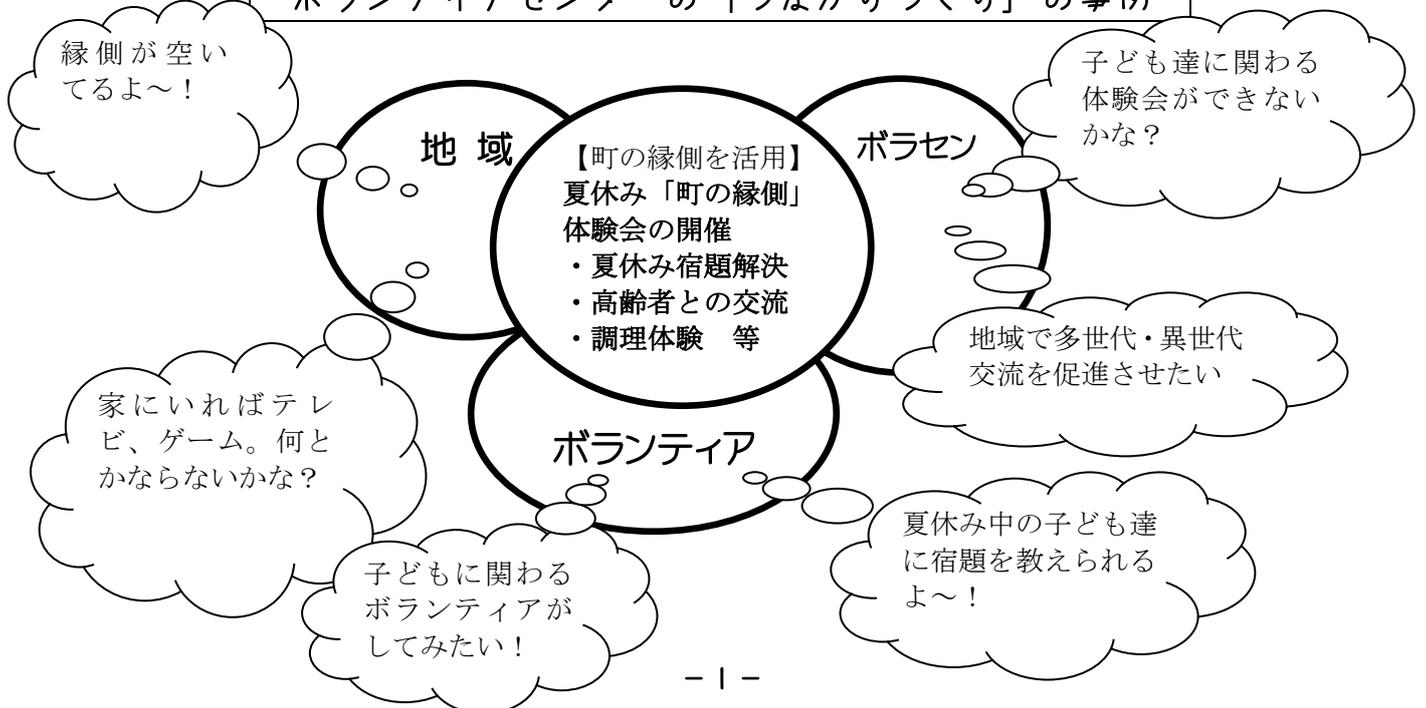
～人と人がつなぐコミュニティから見えてくるもの～

みなさんは「まちづくり」聴いてどんなイメージを持ちますか？道路を作り、景観を整え、町並みを整備して「住み良い」町にする、これも間違いのない「まちづくり」。軽井沢町は恵まれた自然環境のもとに、人が集い、新たなコミュニティを新規移住者や、それを取り巻く近隣住民で形成してきました。

ボランティアセンターとは、「まちのホットステーション」です。ホットな「情報や活動」を紹介すること、ホットな「人」や「出来事」をお伝えすることも得意です。自分が担い手になることも、受け手になることも可能！金銭的な見返りを求めず地域社会を住み良くする活動や他者を支える活動などの社会的活動に携わること！これがボランティア・地域活動です。それを通じてボランティアセンターは「地域福祉の推進」を目指していきましますし、身の回りで今まで気付かなかった課題を「ご近所的課題」として取り上げて解決することも可能になります。

前述した、町並み・景観整備と、私たちが目指す「人と人がつなぐコミュニティ」から始まるまちづくりを是非合作にしたいですね。いや、せねばならんのです！

～ボランティアセンターの「つながりづくり」の事例～



まちづくりリーダー養成塾開催中です！

私たちの目指す町づくり。それは人と人がつながり支え合う地域社会づくりの推進にあります。関係機関の主要施策にもコミュニティの再生や充実に、町づくりの担い手を確保するという動きも活発化しています。

そこで、軽井沢町も一層の地域福祉推進と地域づくりの担い手となる潜在的活動者を掘り起し、新たな地域課題や豊かな社会生活を送るための一助とし、自らの発想や発見で自分たちの住む町をより輝かせることのできる人財を育成するために標記養成塾を開催しています。

一般公開講座！聴かなきゃ絶対損！

第5回目 11月27日(金) 「やねだん」から学ぼう！地域活動は感動の連鎖反応！
講師 地域活性化伝道師 豊重 哲郎さん (当日は遠く鹿児島から来町されます！)



8月：第2回目講座 (昔遊び)



9月：第3回目講座 (傾聴)



10月：第4回目講座 (白熱講座)

やねだんって知ってる？

鹿児島県大隅半島のほぼ中央に位置する鹿屋市串良町柳谷地区。

地元の人には「やねだん」と呼ぶ120世帯おおよそ300人が共存する、高齢化が進む典型的な中山間地域の集落です。

この集落がアイデアあふれるリーダーの下、子供達から高齢者まで強い絆で結ばれ、土着菌堆肥からサツマイモ栽培オリジナル焼酎開発、トウガラシ栽培からコチュジャン開発といった、集団営農から六次産業化を推進、集落の独自財源を築き高齢者には一百万円のボーナスが支給され、地方創生の”good practice”として全国的に注目されるようになりました。

「地域再生」リーダーへの一言提言

- 一、すぐれた人財は、社会の財産(人徳養成)
- 一、3歩進んで2歩下がる(フォロー)
- 一、慌てるな、急ぐな、近道をするな(土台づくり)
- 一、リーダーはそれ相当の犠牲を払わなければならない(忍耐力・経済力)
- 一、ヒーローにならなくていい、黒子でいい(天狗になるな)
- 一、感動と感謝、目配り、気配り、心配り(情熱の人)

…誰でも安心して活動するために…

《ボランティア活動保険に加入しましょう！》

*補償期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

*掛金 (補償金額により異なります)

Aタイプ 300円/Bタイプ 450円

*手続き方法

・ボランティア団体

⇒『ボランティア活動保険加入申込書』(専用用紙)
『保険加入者名簿』(団体独自のものと可)

以上2点の書類に掛金を添えてボランティアセンターまでお持ち下さい(ボランティア団体の場合は加入数15名分までを社協で負担します)。

・個人ボランティア

⇒ボランティア登録票を提出で、加入となります。
手続き及び掛金負担は社協で行います。

【イベント案内】

●戦後70年 戦没者合同追悼式

11月20日(金) 午後1時30分～ 軽井沢町中央公民館
戦時中の写真・遺品展示・戦争体験者の語り部 他

●第33回佐久地区ボランティア・地域活動フォーラム

11月29日(日) 12:30～16:00 佐久市市民創練センター
地域福祉推進に関する講演・シンポジウム 他

●軽井沢中部小学校 4学年 福祉体験学習(手話)

11月19日(木) 9:40～10:25 軽井沢中部小学校

手話体験と当事者グループとの交流会

【ボランティア募集】

●託児ボランティア

12月6日(日) 12:30～16:00 軽井沢町中央公民館
軽井沢町社会福祉大会における託児活動 募集5名
なんと・・・講師はあの三四郎さん!

●車両運転ボランティア(詳細はお電話ください)

●犬のお散歩ボランティア(//)

◆軽井沢幼稚園は手話の勉強中!!◆

毎月軽井沢幼稚園の園児たちに手話を通じたコミュニケーションの楽しみ方を伝えに、SLC手のひらの会のメンバー数名が活動を展開しています。身近な動物や色、手話ソングまでレパートリーが広い!一緒に参加した私が「へえ～」と感心すると、園児たちは後ろを振り向き「知らなかったの～」と言うお顔で「どや顔」を!あぁ…まだまだ勉強不足だなぁと落ち込んでいると、先生から、「土屋さん次回はお餅つきに来てください!」とお誘いを受けてにんまり…。園児たちは小学校へ行っても「福祉教育」という分野でまた一緒になれるかな?その頃までに自分も手話の数々を覚えておきましょうと思うのでした。



これサクランボだよ～



最後は手話ソングで。

ふれあい祭りでもご披露いただきました!

◆塩沢区十日夜の“つう鉄砲”◆

みなさんは自分の住む地域の伝統行事をご存知でしょうか?

(十日夜:とおかんや) …写真

十日夜は毎年11月10日の夕べに子ども達によって行われる塩沢に古くから伝わる伝統行事。これはモグラや悪霊を防ぐという目的でつうを縄で束ねたつう鉄砲で村内の家を叩いて回るもの。

「十日夜、十日夜、十日夜はいいもんだ、朝そばきりに昼だんど、夕もち食っちゃぶったたけ、それ1,2,3,4,5,6,7,8,9,10」と唱えて叩く。～塩沢区関係者より聞き取り。

現在は、町内でもこの行事を行う地区は減少している。



《軽井沢中学校3学年 福祉体験学習について》

～誰もが知ってる「福祉」。だけど「ふくし」って何だろう？と考えてみた！～

10月14日、軽井沢中学校及び周辺施設で軽井沢中学校3学年を対象にした福祉体験学習が開催されました。福祉とは「ふだんのくらしのしあわせ」を合言葉に、実に8領域の活動に生徒さんを始め、先生方もチャレンジしていただきました。

普段の生活の中に当たり前のように存在する「困りごと」や友達・ご近所・ご両親との「関係」にまで根を下ろして、真面目に、素直に取り組んだ生徒さんたちの声を拾い上げてみました。

(子育て支援について学んだ生徒)

- ・人とふれあうことの大切さ、「命」とはどんなものか。私たち一人ひとりがここにいること自体が奇跡なんだ！
- ・あと何年かすると、もしかしたら自分にも赤ちゃんがいるかもしれない。今まで人ごとに感じていたけど、お母さんは赤ちゃんが生まれる前、生まれた後とその大変さが伝わった。

(ボランティア・NPOについて学んだ生徒)

- ・いつかボランティアをしてみたいと思った時、自分の好きなこととかを生かせる、そんなボランティアをしてみたい。
- ・普段の登下校中に周りをあまり気にせずにはいたが、何か変わったことはないか？と観察することが大切だと思った。

(赤十字・寄付と募金について学んだ生徒)

- ・高校生になったら救急法を受講したい！
- ・大人になったら仕事の合間を見て、赤十字ボランティアをしたい。三角巾が無くても給食のときのバンダナを使えば人が救えることに気付いた！

(環境保護を学んだ生徒)

- ・環境を大切にすることとは、人間を大切にすること。
- ・今日の経験を生かし家に帰ったら畑仕事にもっと積極的に関わり土の中の「ミミズ」を見つけない。

(身体障害について学んだ生徒)

- ・車いすでも楽しいスポーツや遊びは出来る！
- ・目が見えない、耳が聴こえない、そんな世界を想像できない…。

(伝統文化について学んだ生徒)

- ・お神楽の、お面の出来栄え、舞いの神秘に驚いた！
- ・伝統を伝える人、お神楽を舞う人が減っている。それらを守り、伝えていくことも福祉なんだと教えてもらった。

(国際交流を学んだ生徒)

- ・福祉は「人を助ける」ことだと思っていたが、人を助けることだけでなく、色々な人と関わることも軽井沢をどのようにすれば良くなるのかを話し合うことも福祉だ。
- ・共生社会とは、自分から進んでコミュニケーションをとることが大切なんだと教えてもらった。

(認知症について学んだ生徒)

- ・認知症の人と話したりゲームしたり、普通の高齢者と何も変わらないと思った。
- ・自分の勝手な想像だけで認知症を考えていた。今後どのようにお付き合いしていくか考えたい。

先生方の感想

- 中学校では授業で町を歩くことがほとんどありません。地域について知る良い機会となった。
- 赤ちゃんとのふれあいは忘れられない財産になりました。
- 高齢者とふれあう中で生徒の表情がいきいきとし、一生懸命関わろうとしていた姿に感動した！
- 三角巾の体験は生徒たちの中でとても印象深く残ったようです。
- 障がいというと、きつい・くらい・つらい、ということが多く体感するプログラムが多くなりがちですが、実際に楽しく体感できるものが多く、生徒たちは心から障がいを持って生活する方々に関心を持ってたようです。
- 実際におにぎり・みそ汁を作りましたが、経験を通じて体得することが生徒たちに伝わったと思う。
- 日本古来の文化と軽井沢の現在における観光地としての姿を対比して考えるきっかけができました。人々の暮らしで語り伝えたい姿もあり、3年生のみならず1・2年生にも学べるものとなっていました。
- 国籍や年齢に捉われず、活発な意見交換ができました。